

しょうがいしゃ

ちいき せいかつ しょうほうし



「障害者」の地域生活情報誌

Vol. 31

ぶるーむ.com

2016.5

はるごう
春号

～ じぶん せいかつたの 自分^{じぶん}の生活^{せいかつ}楽しんで^{たの}いますか？ ～ はな だんご 花^{はな}より団子^{だんご}・・・どころではない！



CONTENTS

P2 運動^{うんどう}紹介^{しょうかい}

P4 Oh-Life!! 第^{だい}14^{かい}回

P6 日々^ひ凡^{ほん}凡^{ほん} 特別^{とくべつ}版

P8 介^{かい}助^{じょ}者^{しゃ}募^ぼ集^{じゅう}!!

P9 活^{かつ}動^{どう}報^{ほう}告^{こく}

◆「ぶるーむ」の由来^{ゆらい}◆

英語^{えいご}のbloomをひらがな^{ひょうき}表記^{ひょうき}したものです。
bloomには、「(花^{はな}が)咲^さく」「(才能^{さいのう}・事業^{じぎょう}な
どが)花^{はな}開^{ひら}く」などの意味^{いみ}があります。この
北九州^{きたきゅうしゅう}の地^ちで、自立^{じりつせい}生活^{せいかつ}の土^ど壤^{じょう}をあらため
ておこすこと^{はじ}から始^{はじ}め、それ^{それ}ぞれ^{ぞれ}の自立^{じりつせい}生活^{せいかつ}
の種^{たね}を植^うえ、色^{いろ}とりどりの自立^{じりつせい}生活^{せいかつ}の花^{はな}が咲^さ
きほこるとい^{ねが}う願^{ねが}いをこめました。

うんどう 運動のページ

たなか ゆうへい
田中 雄平

じぎょうたい うんどうたい じりつせいかつ
事業体であり運動体である自立生活センターぶるーむ。このページではぶるーむ
げんざいと く しゃかい か うんどう ふた しょうかい
が現在取り組んでいる社会を変える運動のうち、二つをご紹介します。

1 くさみえき そうちようや かんむしん かもんだい JR朽網駅の早朝夜間無人化問題

ぶるーむ.com にて継続して報告しているこの問題。駅に駅員がない場合に車掌
うんてんし せっち くるま しょう しょうきやく しょうこう
または運転士がスロープを設置して車いすを使用する乗客の乗降をサポートする
しょうがいしゃ さべつかいしょうほう い か さべつかいしょうほう こうりてきはいりよ ちと
ことを、障害者差別解消法（以下「差別解消法」という。）の合理的配慮として求め
てきましたが、その対応はできないとする JR九州の姿勢はいっこうに変わる気配
たいおう きゅうしゅう しせい か けはい
がありません。そこで、3月14日の話し合いの席で、差別解消法の基本理念である、
が つ にち はな あ せき さべつかいしょうほう きほんりねん
「社会の環境が障壁となって障害者をよりいっそう障害者に行っている」とする障害
しゃかい かんきょう しょうへき しょうがいしゃ しょうがいしゃ しょうがい
の「社会モデル」の考えに対する JR九州の見解等を聞く質問書を手渡し、1か月
しゃかい かんが たい きゅうしゅう けんかいたう き しつもんしょ てわた げつ
以内に文書で回答するよう JR九州に求めました。
い ない ぶんしょ かいとう きゅうしゅう ちと
(しつぷつじてん かいとう
執筆時点でいまだ回答なし)

が つ にち さべつかいしょうほう しつもんしょ だ きゅうしゅう
4月1日、差別解消法がスタートしました。質問書を出したからといって JR九州
たいおう か はな あ あいてがた
の対応はすぐには変わらないでしょう。しかし、このような話し合いと相手方の
げんじてん かいとう ひと ひと つ かせ さんねんご おこな
現時点での回答を一つ一つ積み重ねていくことが、三年後に行われることになって
さべつかいしょうほう みなお よ えいきょう およ おも ひ つづ きゅうしゅう はな
いる差別解消法の見直しに良い影響を及ぼすと思います。引き続き JR九州との話
あ けいぞく おも
し合いを継続していきたいと思います。

し
～お知らせ～

さべつかいしょうほう しこう きたきゅうしゅうし しょうがいしゃ さべつ かん そうだんまどぐち せっち
差別解消法の施行にともない、北九州市に障害者差別に関する相談窓口が設置さ
れました。

こくらきたく おおてまち かい
小倉北区大手町のムーブ8階
でんわ
電話 093-582-5515

差別をなくしていくには事例を積み重ねていくことが大切です。「これって差別かな？」と思ったら、みなさんも相談に行ってみましょう。

2 重度障害者入院時コミュニケーション支援事業の運用改善

意思疎通を図ることが困難な重度障害者が入院する場合、慣れない看護師が介助するため病状をより悪化させるリスクがつきまといまいます。そこで、慣れた介助者がコミュニケーション支援員として本人と医療従事者との意思疎通の間に入り、円滑な医療行為を受けることができるよう支援することを目的としたこの事業。ぶるーむでは実際にこの事業を利用した経験に基づいて、運用の改善を北九州市に要望してきましたが、この4月から要望の一部が実現し、運用が改善されることになりました。

●必要な見守り（待機）についても、支援の対象時間とする。

入院している際、医師等はいつ病室に来るかもわからないのに、これまでは医師が診察に来た数分間のみを対象時間としていました。これでは必要な見守り（待機）の時間は費用が全く算定されず、この事業の利用実績が伸びない大きな原因になっていました。今後は、断続的なコミュニケーション支援が必要な場合において、必要な見守りの時間についても、対象時間として認められることになりました。

●コミュニケーション支援は、治療等の重要な医療行為に限定しない。

これまでは診察時の医師等とのコミュニケーションのみが対象時間とされ、入院中の看護師による食事介助なども病状回復には大切であるにもかかわらず除外され、この事業の利用しづらさの原因になっていました。今後は、病状や治療方針の説明、実際の治療などの重要な医療行為のみならず、療養など様々な場面对象時間として認められることになりました。

昨年、平成30年から重度訪問介護を入院中も利用できるようになるとの報道もありました。重度障害者が安心して入院できる制度ができるようこれからもニーズを発信していきたいと思っております。

Oh-Life

第14回 戦果は灰色の・・・

2015年11月21日(土)、その日僕は横浜にいた。まあいつものごとくアニソンのライブなのだが、今回は特別に緊張していた。なんと今回のライブの会場はあの横浜アリーナである。ライブのために関東まで遠征するという経験は、今までなかったわけではないのだが、やはり横浜アリーナは別格だった。前日、風邪の病み上がりで緊張のあまり体調不良(膀胱炎な気分?)になってしまい大騒動になったのだが、今回は他にも内容があるのでこの話は割愛することにする。

なぜか旅の開始時から満身創痍だったが、滞りなく飛行機や電車などを乗り継ぎ、ライブ会場のある新横浜駅にたどり着いた。テレビなどでしか見たことの無かった街を、自分の目で直接みる事ができるとワクワクしていたのだが、ここで一つ問題が発生した。それは、駅が複雑に広いということである。自分たちの目的の出口にでたいだけなのに、やたら長い距離を歩いたり、複数のエレベーターを乗り継ぐ必要があるのである。加えて、三連休の初日の土曜日で半端なく人が多い。慣れている人たちには問題ないのかもしれないが、その地に不慣れな僕からすればただの迷宮である。

さんざん迷った末、予定よりも少し遅れて会場の横浜アリーナに到着した。長時間のライブに備えて昼食を食べておきたかったのだが、少し遅くなったせいか、会場の周りの全ての飲食店は同類であろう人たちで溢れかえっていた。また一から並びとライブには間に合わないの、コンビニでおにぎりなどを買って、寒空の中食べるしかなかった。今、思い返してみると僕の関東での旅は食運に恵まれていないことが多い気がする・・・。

そんなこんなで、手早く昼食を済ませた僕は、会場の横浜アリーナに向かった。今回は運営側が用意した障害者席からの参加だったが、かなり見やすい席が用意されていた。障害者席には、僕以外にも何人か障害者の人がいた。地元のライブなどでは、障害者席は僕一人だけのことが多いのだが、何人も他の障害者の人が参加しているのをみると都会は凄いなと思った。

会場に客が入り終わるとライブもスタート直前だ。いよいよだと気合いを入れ直していた僕に、前座のお姉さんから衝撃の一言が・・・。「今日のライブは7時間以上ありますが、みなさん頑張ってくださいね～」戦慄のせい、風邪の病み上がりのせい、妙に寒気がした。ちなみに当日の僕の体調は、風邪はもう治っていたのだが、アレルギー性の鼻炎と喘息がかなり残っていたので、本調子とはほど遠い感じだった。大型のアニソンライブでは、4時間以上のライブは当たり前なのだが、7時間以上は流石に経験したことがなかった。僕の普段の睡眠時間が約6時間なので、自分の寝ている時間より長いライブである。今の僕の体調で乗り切れるかとても不安だったが、もうここまでくれば、最後まで乗り切るしか選択肢はない。止めどなく流れる鼻水を啜りながら、僕は腹をくくった。

こうして、7時間超のライブが始まった。まあ、7時間超といっても常に自分の興味のあるアーティストが出演しているわけではない。そのため、時には全力でペンライトを振り、時には休憩するという感じで、自分の体力を調整しながらライブを楽しむのである。僕の興味の無いアーティストにはかなり失礼な気もするが、長時間のライブを最後まで乗り切るにはこうでもしないと身体がもたないのである。前の連載にも書いたが、最近のライブでは全力でペンライトを振る機会がなかった。だが今回のライブではスペースにかなり余裕があったので思う存分ペンライトを振ることができる。僕はここ2・3回のライブでの鬱憤を晴らすかのように全力でペンライトを振った。今思い返すと、隣や後の障害者の参加者には少し(笑)迷惑をかけていたかもしれない・・・。

ちなみに僕は、ライブの際には、ペンライト(12色に切り替え可能・3500円)を持参している。だが、今回ばかりは流石に一本では物足りない気分だったので、中盤の休憩中にもう1本(3500円)買い足すことにした。僕はこの遠征で、みなとみらいや中野ブロードウェイにも行ったが、食費・交通費などの経費以外でお金を使ったのはこのペンライト一本のみであった・・・。

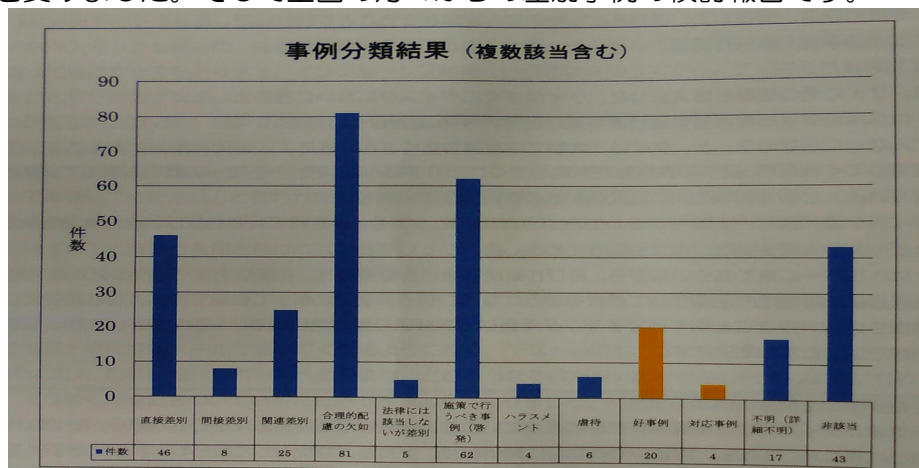
最初は戦慄した7時間超のライブも、気付いてみればあっという間に終わっていた。ライブ中もずっと鼻水が止まらなかったのだが、充実した楽しい時間を過ごすことができた。翌日の朝、微妙に灰色の鼻水がでたが、驚くよりもやり切った感の方が完全に勝っていた。

日々凡凡

3月31日、衆議院議員会館にて行われた差別解消法におけるガイドライン成果報告集会と施行を祝うパレードに参加させていただきました。4月1日から施行される差別解消法ですが、この法律が動き出し障害をとりまく社会はどう変わっていくのでしょうか。



報告会は民進党の議員挨拶から始まりました。その後DPIがどのように内閣府に投げかけ施行にいたったのか説明を受けました。そして全国の方々からの差別事例の検討報告です。



以上のように合理的配慮の欠如に関する事例が多くあったようです。（個人的には直接差別の件数の多さも気になるのですが）

さて合理的配慮の欠如とはどういったものなのでしょうか。障害者の権利に関する条約のなかには、「合理的配慮」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を共有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と明記されています。条文を読む限りとても難しいです。

わかりやすく言うと「障害者一人一人の必要を考えて、その状況に応じた変更や調整などを、お金や労力などの負担がかかりすぎない範囲で行うこと」となります。

さてこの中で合理的配慮の立証は誰がおこなうのでしょうか。実際の紛争解決に至るまでは相談・調査→助言・あっせん→勧告・訴訟支援→条例実施の監視体制となります。合理的配慮の欠如を明確に記すものがないので今後、事例の収集に力を入れ明確化していきたいとのことでした。

やはり気になるのは物差しがないので、もろ刃の剣にならないか不安です。障害者が対等に生活できる社会の実現がこの法律の考えでしょうが、この法律をどう育てていくかも社会の責任ではないでしょうか。



さて午後からはパレードの時間になりました。日比谷公園に集合後、700人の全国の障害者団体の方々と東京駅までの道のりを歩いてまいりました。

シュプレヒコールを上げながら、銀座の街の車を停めて、観光客に写真を取られ、通行人からは迷惑そうな視線をむけられてのパレードでした。しかし多くの人に知ってもらえ、全国にも報道されたでしょう。

法律ができたから差別がなくなるわけでもなく、陰湿な差別に形を変えるかもしれません。また法律を盾に、配慮以上のものを求める当事者が現れるかもしれません。大事なのは平等になること。同じ選択肢をもち、同じように決めて、同じように責任を取れること。それはお互いが考えなければならぬことではないでしょうか。世界に比べ、できるのに時間のかかったこの法律です。間違った方向にいかないように大事に育て、見守ろうではありませんか。

まだまだ長い道のりではありますが、平等な社会の為の第一歩だと感じる一日でした。



介助者緊急募集

【時給】
1,200円～

資格は要りません
男性・女性問わず
募集中です！

異性介助は
ありません

当たり前を
地域で実現！

障害者は健常者に
勇気を与えるために
生きているんじゃない

誰にでもできる
簡単な仕事です！

【勤務時間】

- ①10:30～16:00
- ②16:00～23:00
- ③23:00～翌10:30

※泊まりの場合、
③では13,800円

介助がなければ
お風呂に入ることも
トイレをすることも
食事もできません

介助の内容は、障害者
だからといって特別な
生活ではありません

週1回可能！電話お待ちしております

NPO法人 自立生活センターぶるーむ

北九州市小倉北区堅町2-1-5 TEL093-562-5431

かつどう ほうこく
活動報告

へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ
平成27年11月~平成28年1月

11月 

JRカスタマーサポート研修⑫

JRカスタマーサポート研修⑬

きたきゅうしゅうしりつだいがく ちいき たつじん でまえこうし
北九州市立大学「地域の達人」出前講師

えいが かせ い じょうえいかい
映画「風は生きよという」上映会(ESD まな
びと講座)

JIL介助サービス委員会会議

ヘルパー研修①A「介助者との関係」

ヘルパー研修①B「介助者との関係」

りじかい
理事会

JRカスタマーサポート研修⑭

JIL 常任委員会

12月 

きたきゅうしゅうしき べつかいしょうほうれんらくかいぎ
北九州市差別解消法連絡会議

JIL介助サービス委員会会議

にしてつ こうしょう
西鉄バス交渉

JIL全国セミナー in 福岡

JIL介助サービス委員会会議

ぶるーむ総会

ようぼうしょ たい し かいとう いけんこうかんかい しょうだんれん
要望書に対する市の回答と意見交換会(障団連)

ピアカン講演会 in 福岡

へいせい ねんど きたきゅうしゅうし しょうがいしゃ じりつ しえんきょう ぎかい
平成27年度 北九州市 障害者 自立 支援協議会
第2回権利擁護部会

1月 

ヘルパー研修②A「障害者の運動の歴史」

ヘルパー研修②B「障害者の運動の歴史」

へいせい ねんど
平成27年度
きたきゅうしゅうししょうがいしゃぎやくたいぼう しけいはつけんしゅう
北九州市障害者虐待防止啓発研修

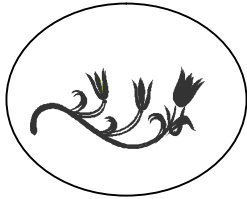
ピアカウンセリング講座リーダー養成講座



へん しゅう こう き
編集後記

はる 春ですね～。き 気づいたらPコートがジャケットに、セーターがパーカーに変わっていま
 す。こじんてき 個人的にはやはり、さむ ひ 寒い日よりも あたた ひ 暖かい日のほうが好きなのです。 【KⅡ】

■ **ロゴについて** ■



この3つが繋がったチューリップには、3J = 「自己選択」「自己決定」「自己責任」の意味と、この北九州の地で自分らしい、いきいきとした花を咲き誇らせてほしい・・・という願いがこめられています。

■ **会員募集** ■

自立生活センターの最大の特徴は、運営や各種サービスを「障害者」自らが中心となって行っていることです。これは、「障害者」にとって何が必要かということが一番知っているのは「障害者」自身であると考えるからです。

「自立生活センターぶるーむ」はこの考えのもと、2007年10月に産声をあげました。当団体の活動は、皆さまからのご寄付と会費により支えられています。

ご支援とご協力をお願い致します。

会員種別	年会費
正会員 当法人の目的に賛同し、法人の活動に責任を持って参加していただける個人の方。	3,000円
賛助会員 当法人の事業を資金面などで賛助していただける個人及び団体の方。	5,000円

【銀行振込】 銀行名：西日本シティ銀行 室町支店
 口座名義：特定非営利活動法人 自立生活センターぶるーむ 理事 田中雄平
 口座番号：1694039

編集人 連絡先
 NPO法人 自立生活センターぶるーむ
 〒803-0818
 福岡県北九州市小倉北区豎町2-1-5 豎町ビル1F
 TEL 093-562-5431
 FAX 093-583-3257
 E-Mail cil-bloom@nifty.com
 URL <http://homepage3.nifty.com/cil-bloom/>

定価 100円